

紫式部の表現力の豊かさ～『源氏物語』における3人の女性の和歌比較から～

国語班: 田中 咲帆、橋本 清香、山下 愛乃

Abstract

In this research, I focused on three women who appear in "The Tale of Genji." Comparing the waka poems composed by the three, research whether there are common points in each waka, and whether there are common points among the three. Three waka poems by each woman will be picked up, and their techniques and characteristics will be investigated and compared. As a result, there was no common point in the three waka poems, but there were common points in each of the three waka poems. From this, we can read Murasaki Shikibu's power of expression.

要約

本研究では「源氏物語」に出てくる、ある3人の女性に焦点を当てた。その3人が詠んだ和歌を比較して、それぞれの和歌に共通点があるのか、またその3人に共通点があるのか研究する。それぞれの女性の和歌から3首ずつピックアップし、その技法や特徴を調べ、比較する。結果として、3人の和歌に共通点は見られなかったが、3人のそれぞれの和歌には共通点が見られた。このことから紫式部の表現力が読み取れる。

1. はじめに

「源氏物語」には多くの魅力的な女性が登場する。作者の紫式部は登場人物の性格を和歌に反映させたと考えた。そこで、性格の全く異なる3人の和歌を原文と現代語訳、和歌で使われていた表現技法などを調べ、共通点を考察する。

2. 研究手法

登場人物の女性の中で、高貴で年上の六条御息所、家柄は良いが風流のない末摘花、幼稚で世間知らずの女三宮に焦点をあてた。

《実験1》

- ①それぞれの女性の和歌を3首ずつピックアップする。
- ②和歌の技法、背景、特徴を調べる。
- ③3つの和歌の共通点を探し、その女性の特徴を捉える。

《実験2》

3人の女性の和歌を比較して、特徴や共通点の違いを調べる。

3. 結果

《実験1》

①

六条御息所は、

「神垣は しるしの杉も なきものを いかにかまがへて 折れるさかきぞ」→A

女三の宮は、

「はかなくて うはの空にぞ 消えぬべき 風にただよふ 春のあは雪」→B

末摘花は、

「我身こそ 恨みられけれ 唐衣 君がたもとに なれずと思へば」→C

などそれぞれ3首ずつピックアップした。

②

Aの和歌は、古今和歌集・雑下・詠み人知らずの

「我が庵は 三輪の山もと 恋しくは とぶらい来ませ 杉立てる門」を参考にして和歌を詠んだとされている。Aの和訳は、「この神垣は人を導く目印の杉もないのに、どう間違えてこの榊を折ってここを訪ねてきたのか」と言っているのに対し、古今和歌集の和歌の和訳は、「私の粗末な家は三輪山の麓にありますので、恋しくなったら門の脇にある杉を目印にして訪ねてください」と言っている。下線部

に注目すると、六条御息所は古今和歌集の歌に反対の意を用いて参考にした。

Bの和歌は、女三宮がわずか14歳のときに詠んだ歌である。まだ小さかった女三宮は40歳の光源氏と結婚する。しかし、結婚当初、光源氏はずっと想っていた紫の上という女性が病にかかっていることを知り、ある夜紫の上を訪ねる。これは、その時に光源氏が女三宮に詠んだ歌への返歌である。この和歌には特に技法は使われていない。和訳は「頼りなくて中空に消えてしまいそうです、風に漂う春の淡雪のように」である。

Cには唐衣に関する技法が4つも使われている。一般的に技法は適切な量で使うのがうまいとされていた。この場合Cは使いすぎで、上手くないということがわかる。これは、玉鬘という女性が成人したときに末摘花が送ったお祝いの和歌である。この和歌を見た源氏は、あなたはいつも唐衣ばかり使ってますねと小馬鹿にした。実際にそのことを揶揄する「唐衣又から衣かへすかへすもから衣なる」という和歌も送った。

③

A以外の和歌にも六条御息所の和歌には、その時代以前に詠まれた和歌を参考にしたり、光源氏との会話の中で中心となった話題を和歌の中に組み込んだりして和歌を詠んでいるという共通点があった。

Bの和歌には「消えてしまいそう」とあります。女三宮が出家する前に詠んだ4首中に3種に「消ゆ」という言葉が使われていることがわかった。「消ゆ」という言葉を多用しており、幼いにも関わらずネガティブであることから、女三宮の境遇が読み取れる。

C以外にも唐衣という言葉を使用している和歌が2つあった。もちろん、唐衣を使用していない和歌も存在したが、全体的にバリエーションに欠けているという共通点があることが分かった。

《実験2》

それぞれの3人の和歌の特徴と性格を比較した表。

	六条御息所	女三宮	末摘花
共通点	昔の和歌を参考にしている	「消えたい」という言葉を多用して表現している	バリエーションに欠けていてうまくない
性格	趣深い人だが嫉妬深い一面も	成長していても幼さが残り、あまり情がない	世間知らずだが真面目で一途な人

4. 考察

《実験1》より3人の女性の和歌にそれぞれ共通点が見られた。《実験2》より、それぞれの性格が和歌に反映されたと考えた。また、3人に大きな共通点は見られなかった。

5. 結論

3人の女性の和歌にはそれぞれ共通点が見られた。だが、3人の女性には共通点は見られなかった。このことから、三人の性格に応じて和歌を詠み分けた紫式部はとても表現力が豊か

さが見受けられる。今後の展望として、「源氏物語」には他にもまだまだ個性的な女性が登場する。今回研究した三人の女性のように和歌から女性の共通点を見出し、今回は見られなかった女性の共通点があるのか研究していきたい。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

柳井 滋 他5人校注「源氏物語」神日本古典文学大系 岩波書店

林 望著「謹訳 源氏物語 改訂新修」祥伝社文庫

大和 和紀著「源氏物語 あさきゆめみし」講談社漫画文庫

小泉 吉宏著「大摺源氏物語 まろ、ん？」株式会社 幻冬舎

http://www.lib.ocha.ac.jp/e-book/list_0002a.html#link_0002_02

<https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/record/9302/files/9.pdf>